

交易機構

機構名	摘要
蒙古生活必需品輸入公社	蒙古特殊法人、生必需品輸入、保有、買上
蒙疆鐵鋼輸入組合	日本組合、鐵鋼類及同製品輸入
蒙疆車輛輸入組合	日本組合、車輛類及同部分品輸入
蒙疆木材輸入組合	日本組合、木材類輸入
蒙疆セメント輸入組合	日本組合、セメント類輸入
蒙疆紙輸入組合	日本組合、紙類輸入
蒙古鐵産配給統制會社	蒙古特殊法人、鐵産物輸入、配給
物資調整委員會	蒙古特殊法人、雜穀、油脂原料蒐荷、配給、移出並ニ其 他、主要生活必需品保有配給
蒙古食品股份有限公司	蒙古特殊法人、鮮魚、蔬菜類及其、他食品輸入、配給

一、物資配給、物價事情

1. 配給機構ト配給概況

國內在住日本人並ニ現地人ニ對スル諸物資ノ配給ニ行テハ邦人側
ハ日本輸入組合及蒙古生活必需品輸入公社ノ下部機構トシテ發着
昭和十六年張家口、大同、厚和、包頭ニ小賣業者ヲ以テ組織シタ
ル日本配給組合ヲ各地領事館ノ指導監督ノ下ニ日本輸入組合及蒙
古生活必需品輸入公社ノ專人物資及組合直接ノ專人物資並ニ地場
産物資ノ配給ヲ爲サシメツツアルカ邦人生活必需品タル食糧、
砂糖、麵粉、石鹼、墨紙、蠟草、石灰、燐寸、鹽等ニ對シテハ每
月配符制配給ヲ食用油、味噌、麥酒、肉類、魚類、棉布類、酒、
セメント、蠟燭等ニ對シテハ必要ノ都度臨時的ニ配符制配給ヲ實
施シ之カ配給ヲ統制スルノ外缺乳兒並ニ妊産婦ニ對シテハ申告制
ニ依リ粉乳、晒水綿、ネル、石鹼、脫脂綿、ガゼ、湖布、棉花
セメント、湯上セメント、天香粉、オシロイカハシ等ヲ配給スル

共ニ一般自田品ニ屬スル生活必需品ニ付テハ蒙疆邦人生活必需
物資供給統制協議會ヲシテ重點的配給ヲ爲サシメツツアリテ邦人
ニ對スル物資ノ配給ハ極力圓滑ニ實施中ナリ
次ニ省令第五〇號在留邦人生活必需品臨時配給統制規則ノ選用
ニ付テハ本年一月各道廳長官打合せ會議ヲ開催シ在蒙各道ニ於
ケル運用方法ヲ決定シ日下本省ノ指示ニ基キ道中ナリ現地人ニ
對スル物資ノ配給ニ付テハ各省盟ノ指導監督ノ下ニ各地系配給組
合アリ同組合直接邦人物資ノ外日系輸入組合及蒙古生活必需品
入公社ノ導入物資ヲモ配給シツツアルガ食糧並ニ衣料ニ付テハ邦
人向同様切符制配給ヲ實施シ居リテ蒙古政府ニ於テハ一昨年二月
臨時物資調整委員會ヲ設置シ重要物資ヲ採有シ價格ノ調整ヲ爲
スト共ニ係有物資ノ適切ナル配出ニ依リ配給統制ヲ實施中ナリ
尙右ノ外電燈、紙、タバコ、油、パイプ及醫藥品ニ對シテハ各
道給務議會ヲ設置シ主トシテ開發關係物資ノ配給ヲ調整シ居リテ

蒙疆ニ於ケル生活必需品ハ現地人側ノ鑛産、邦人側ノ味噌、醬
油、清酒ノ外食肉等ヲ除キタルモノハ殆んど有ユル物資ヲ或外ニ
仰キツツアル現狀ニシテ爲ニ蒙外ノ物價高ハ直ニ疆内物價ニ影響
ヲ及ボシアル狀況ナリ從ツテ之等三必需品ヲ出來得ル限り疆内ニテ
生産スル必要アリ蒙古政府ニ於テハ昨年以來疆内輕工業ノ育成強
化ニ努力シアルモ立地條件其他ニ依リ遠道關係以外ニ於テハ未ダ
實地ヲ見ルニ至ラス本年夏ニ於テハ雜糧類ノ豐作ヲ豫想セラレ物
資配給モ亦概ネ圓滑ニ實施中ニシテ一般ニ民生ハ安定シテ今後
物資配給ノ基調ハ一黨職等目的遂行ノ面ニ指向シ殊ニ地下資源ノ
開發及對日供出ニ努力シツツアル點面ニ對シ特別配給ヲ實施スル
コトト爲シ居レリ

物價事情

蒙疆ニ於ケル生活必需品ハ殆んど華北ニ依存シ有ユル經濟面
ニ於テ華北トハ密接不可分ナル關係ヲ有シ華北ノ物價高ハ直ニ蒙



物價ニ反映シ事變以來高騰ノ諸物價ハ大東亞戰爭勃發ニ依リ急
 激ニ暴騰セルヲ以テ一昨年七月邦人生活ノ安定ヲ期スル爲邦人側
 物價中食糧米、砂糖、鹽、石炭、石油、煙草、燐寸等ニ對シテハ
 價格ヲ公定スルト共ニ各地日本配給組合ヲシテ王ナル生活必需物
 資ノ協定價格ヲ設定セシメ右以外ノ物資ニ對シテハ販賣開始前原
 價計算書ヲ提出セシメ輸入業者五・七％小賣業者二・〇％ノ手数料
 ヲ大體ノ目標トシテ販賣價格ヲ指定シツツアルヲ以テ國內ノ一般
 邦人物價ハ概ネ華北小賣物價ノ一〇・一三〇％高ナリ尙地場製產品
 ノ價格モ概ネ輸入物價ニ準シ決定シ居ルモ未タ品質ノ改良ヲ要ス
 ルモノ多ク輸入品ニ比シ割高ノ勢狀ナリ然ルニ昨年二月以來華北
 ノ異常ナル物價高ハ直接間接ニ波及シ來レルヲ以テ之方對策トシ
 テ米、砂糖、石炭、布帛製品、白麵、食油等一部重要物資ニ付舊
 古政府臨時物資調整委員會ニ於テ價格調整ヲナスコトトセリ
 尙當地ニ於ケル八月一日現在小賣物價ノ暴騰前並ニ本年四月一日

現在ヲ一〇〇トスル品目別小賣物價指數ハ別表ノ如クニシテ小賣
 物價指數ハ對暴騰前（昭和十二年八月現在物價）三八二・〇（調
 査品目七五）對本年四月一日現在物價一五三（調査品目七六）ナリ

種別	品名	數	昭和十二年八月一日 一〇〇トシタル指數平均	昭和十四年四月一日 一〇〇トシタル指數平均
穀類	米	一	三、四〇〇	二、一三三
飲料	飲料	五	六四七	一、六四五
調味料	調味料	七	六三九	一、二二三
漬物類	漬物類	二	一、三三二	一、三三七
乾物類	乾物類	四	一、六五三	一、〇〇七
蔬菜類	蔬菜類	八・九	一、三〇四・八	一、二二六
肉類	肉類	四	五七五・四	一、三三二
魚類	魚類	二	一、七四二	一、八八五
穀粉類	穀粉類	二	二七二	一、〇〇〇

計	燃料 燈火	衛生 費	文房 具類	化粧 類	食器 類	履物 類	衣服 類
七五、一七六	六	四	五	七	三	四	一一
(三八三、七)	四一、五五	四三、七	九八、二	五七、〇	二八、八三	二〇、三一	一、八五二
(一、五三)	一四、一	一一、〇	二一、八	一一、一	一〇、六	一一、九	三四、五

一、特産 眞情

1. 阿片

本年度阿片生産計 暨八年度當初其ノ管理機構ヲ特別機關ヨリ一般
地方行政機關ニ吸収スルコトニ改正セシメノ糧穀ノ増産確保ト結合

阻害ヲ來ササル如クシテ昨年度指定面積ヨリ三割減ノ七〇萬畝ヲ指
定シ東亞共榮圈内ニ於ケル需要ヲ勘案シ一應六百萬兩ノ收買目標
ヲ樹立治安良好ナル地域ニ割當タルカ實情調査ノ結果ヲ見ルニ指
定面積七〇萬畝ニ對シ四二萬畝ノ作付ニシテ僅ニ其ノ六割ニ過キ
ス右ハ一般農作物カ天水潤澤ノ見込ト其ノ價格昂騰ニ因リ糧粟裁
培ニ比シ危險少クシテ而モ利潤多クナリタルトニ因ルモノナリ成
育状況ハ當初良好ナリシモ割當期前ニ至リ水害、風害、雹害、
病蟲害等ノ被害各地ニ續出シ一部ノ地區ヲ除キテハ其ノ生産量ハ
平年作ノ六分乃至五分作ト稱セラル

與ニ寬荷状況ヲ見ルニ通貨政策上農民ノ期待並ニ密買價格ニ比シ
收買價格ノ引上ヲ行ハサリシト減收ニ因リ收買末期タル本月末迄
ニハ三百五十萬兩内外ニ止マル見込ナリ

2. 煙草

葉煙草ハ南洋煙草股份有限公司ヲシテ作付セシメ昨年度三〇萬畝

ノ收穫ニ對シ本年度ノ收穫見込六〇萬担ニシテ葉煙草ノ改良ト耕
作面積ノ擴張トニ依リ年々增收ノ趨勢ニアリ

捲煙草ハ元來暹羅ニ生産ナク粵ラ北支及朝鮮ヨリノ輸入ヲ待テタル
カ地域内需要ノ圓滑ヲ圖ルト財政上ノ見込ヨリ昭和十五年東洋紡
ランテ張家口ニ設備原料材料等年間二〇億本以上ノ生産能力ヲ有
スル煙草工場ヲ設置セシメ本年度ニ於テハ前年度同様一五億本ノ
生産決定ナリ

粉煙草ハ從來國內需要約三萬担ナリシニ對シ山西省方面ヨリ約
四萬担（一龍一二五斤）ヲ輸入シテアリタル處同地ニ於ケル葉煙草
事情ノ變化故ニ煙草政策ノ變更等ニ依リ製煙ニ於ケル自給ヲ目指
シ粉煙草製造ノ計畫ヲ進メ昨年四月頃地系ヲ主體トスル製煙製造
株式組合ヲ組織セシメ日下月産約四〇〇萬担見込ノ生産ヲ爲サシメツ
ツアルノ外更ニ粉煙草製造工場ヲ厚和ニ設置シ日下操業準備中ナリ
最近ニ於ケル地系内需給状況ハ卷煙草二五億本ト推定地域内製造

一五億本輸入一〇億ノ計畫ヲ樹テ實際中ナル處原料關係ヨリ實施
困難ニシテ本年四月頃古煙草協會ヲ設立シ卷煙草ノ配給制ヲ實
施シ需給ノ調整ヲ圖ルコトトセリ

8 鹽

鹽ノ製造採取ハ古政府ノ許可制度ニシテ收買、輸出、販賣販
賣ハ總テ蒙賜鹽業組合ヲシテ之ヲ爲サシム昭和十九年度ニ於ケル
鹽生産高ハ本春以來打續ケル降雨ニ禍セラレタルト生産費ノ昂騰
故ニ輸送力ノ減退等ニ基因シ當初生産決定計畫四二萬擔ニ對シ直
ニ一〇萬擔程度ヲ確保シ得ル見込ニ過キス之カ爲テ北長蘆鹽ノ輸
入ヲ圖ル一〇萬擔ニ對スル配給ヲ規正シ極力消費ノ節約ヲ期シ
居レリ昭和十九年七月ヨリ二十年四月迄ニ供給不足分ニ充當スル
北長蘆鹽四〇萬擔ノ輸入計畫ヲ樹立目下實施中ニシテ昭和十九
年度鹽稅關係歲入トシテ計上シタル二百萬圓ハ略確保シ得ル見込
ナリ昭和二十年度ニ於ケル生産決定高ハ四五萬擔ニシテ販賣決
定高ハ六〇萬擔ナリ

二 産 業

鐵 産
 蒙疆地域ハ地下資源豐富ニシテ鐵鑛石、石炭、石棉、毒母、硼砂等ノ對日供給地タル役割ヲ果シツツアリ地下資源中現下特ニ重要視スヘキハ鐵鑛石、石炭ニシテ其ノ中核ヲナスモノハ龍烟鐵鑛及大同炭鑛ノ開發ナリ

龍烟鐵鑛ハ會社資本金壹億八千萬圓一
 龍烟鐵鑛ハ龍關縣、宣化縣、涿鹿縣附近一帯ニ賦存セル赤鐵鑛ノ龍烟家堡、烟筒山ニ付稼業中ナルカ本年所生産目標ハ一、五〇万應一龍家堡七〇万應、烟筒山八〇万應ニシテ特ニ良質ナル龍家堡鐵石ノ七〇万應生産確保ニ重點ヲ指向シ之カ開發促進ノタメ滿洲重工業株式會社ヨリ資金、資材及要員ノ参加ヲ見タリ今本年度上半期ニ於ケル生産狀況ヲ見ルニ烟筒山鐵區ニ於テハ五五%龍家堡鐵區ニアリテハ四二%ノ實績ニシテ之カ減産ノ原因ハ種々アリト

雖モ主トシテ勞力及現場技術員ノ不足ニ起因スルモノト認メラルルヲ以テ確固タル勞務對策ヲ樹立シ之カ實施ヲ督勵恢復ニ努力中ナリ最近三箇年間ニ於ケル計畫對實績ヲ示セバ次ノ如シ(單位應)

年次	區分	計 畫		實 績	
		生 産	比 率	地 區 内	外
昭和十六年	全	600000	100	1771	293041
	支 滿 洲 日 本	1771	100	1771	1771
全 十 七 年	全	600000	100	4770	383477
	支 滿 洲 日 本	4770	100	4770	4770
全 十 八 年	全	700000	100	7110	768777
	支 滿 洲 日 本	7110	100	7110	7110

尙又時局ノ要請ニ基キ小型熔鐵爐ニ依ル現地製鐵ノ企圖セラルルヤ當地區ニ於テハ龍烟鐵鑛會社(一)〇噸爐十基一及蒙疆興業股份有限公司(同)五基一ノ兩社之カ指名ヲ受ケ夫々稼業中ナルモノトシテ又設備不備ノ爲質ノ不良及輸送難等ニ因ル原料等ノ不足等ハ依リ上半期ニ於ケル出銑實績不振ニシテ之カ對策ハシテコークス製造設備ノ改良増設竝ニ大同炭ノ配合使用等其ノ向上ヲ圖リツツアルカ本年度製鐵生産目標及上半期計畫對實績ヲ示セハ左ノ如

會社別	本年度計畫	計數		備考
		上半年	全年對比	
龍烟鐵礦	14100	12100	86%	操業基數100種糖・1.5%
蒙疆鐵業	24000	20100	84%	操業基數100種糖・1.5%
計	381000	322000	85%	

2. 大同炭礦

大同炭礦ハ北ハ大同省ヨリ南ハ華北山西省ニ至ル廣域ヲ領シ賦存
 スル大同炭田ノ一部ヲ稼業スルモノニシテ東ヨリ保晉、裕豐、水
 定莊、向家梁、白洞、八寶、寶藏ノ七坑アリ此ノ外土法採炭ヲナ
 スモノニ口泉及老央池ノ一坑アリ何レモ非粘結炭ニ屬ス尙此ノ外
 新規開發中ノモノニ粘結炭昭相坑アリ
 而シテ大同炭ハ從來炭用炭トシテノミ利用ヤラレタルモノモ近時之ガ
 利用研究ノ結果漸ク製鐵原料用、瓦斯發生爐用其ノ他化學處理用

ニモ使用可能明カトナリ新ナル重要性ヲ加ヘツマヤ本年度上半
 期ニ於ケル生産狀況ハハニ%ノ實績ナルカ最近三箇年間ニ於ケル
 計畫對實績ハ左ノ如シ(單位應)

年次	區分		計	日本
	實績	計畫		
昭和十六年	1000000	1000000	1000000	1000000
全十七年	1000000	1000000	1000000	1000000
全十八年	1000000	1000000	1000000	1000000

3. 大青山炭礦

大青山炭田ハ巴彥塔拉盟西部ニ位シ強粘結炭ヲ産出シ製鐵原料ノ
 骸炭及液體燃料、原料炭供給源トシテ、重要炭田ナリ最近二箇年
 ニ於ケル生産實績左ノ如シ(單位應)

年次	區分		計
	上半年	下半年	
昭和十七年	1000000	1000000	1000000
全十八年	1000000	1000000	1000000
全十九年	1000000	1000000	1000000

4 雜礦物

蒙疆地域ニ石綿、雲母、黒鉛等ヲ多量ニ賦存シアリテ之等礦産物ノ取得ニツイテハ當大使館、重及蒙古政府ト協議ノ上開發要綱ヲ定メ實施中ナリ本年度計畫及上半期計畫對實績ハ次ノ如シ(單位應)

種別	本年度計畫	計畫數量		備考
		上半期	全上對比	
石綿	4000	2138	1298	綠葉會社 五社
雲母	300	127	94	全 九社
黒鉛	111	24	13	全 一社

尚滿掩鑛モ相當多量ニ生産セツレ(官化省)滿掩ノ含有量30%内外ノ良鑛ニシテ年度計畫6000應ニ對シ上半期實績ハ100ハ%ノ好成績ヲ收メタリ

5 稀有元素鑛

最近ノ調査ノ結果ニ依リ稀有元素鑛物ニ關シテハ朝鮮ニ亞ク産出地トシテ將來有望視セラレ目下之カ採取ニ努力中ナリ又最近ノ調査ニ依リ明カニセラレタルモノニコロンズ石、リシヤ雲母、綠柱石、褐簾石及ジルコン等アリテ主トシテ包頭西方地區ニテ發見セラレタリ

6 鑛山勞務狀況

鐵、石炭ノ上半期生産方計畫實ニ遅ヤサリシ原因ハ華北勞工導入困難、地場勞力ノ急激ナル需要増加ニ基ク勞力不足ニ依ルキノ主ナル原因ト謂フヲ得ヘシ即チ本年上半年ニ於ケル勞務需給計畫百(在籍者)ニ對スル實績比率ヲ示セハ左ノ如シ

鑛種	鑛山名	四月	五月	六月	七月	八月	九月
鐵鑛石	顧家堡	70	46	41	42	10	76
	烟筒山	84	69	51	34	33	33
石炭	大同炭鑛	67	70	80	70	88	69
	大青山炭鑛	41	34	39	46	46	37

尙華北ヨリ勞工導入ハ絶對數ニ於テハ昨年ヨリ九一六名増加シニ
八七八名ナリシモ當地區内ノ需要増大シタル爲重點的配置ヲ爲
シタルモ所期ノ成績ヲ擧ゲ得ザリシモノナリ

以上ノ狀況ニ依リ蒙古政府ニ於テハ各種ノ土木工事ヲ調整スル
共ニ勤勞挺身隊ノ如キ行政供出ヲ強行スルト共ニ勞工ノ確保ニ万
全ノ措置ヲ講スヘク勞務物資就中工人用食糧ノ絶對確保ヲ計ル目
的ヲ以テ本年七月蒙疆糧穀配給協議會ノ全面的改組ヲ斷行シ之ヲ
商業部農林科ニ移管シ配給ノ圓滑化ニ努メ漸次成果ヲ擧ケツツア

農業

蒙疆ニ於ケル農産物生産ハ疆内ノ民食ヲ確保シ民心ノ安定ヲ圖リ且
ツ地域外ヘ供出スルヲ圖ルヲ目的トシ銳意増産ニ努メアリ殊ニ戰局
ノ進展ニ伴ヒ蒙疆農業ノ重要性ニ鑑ミ特ニ軍需、幹需並ニ對日還送
重要農産物資源ノ確保確保ニ邁進セル處本年ハ採種期以來ノ好氣象

條件ト俟ツテ各作物トモ頗ル良好ナル生育ヲ示シ本年七月十五日現
在第一次調査ニ依レバ糧穀作付面積ニ一四一七六六陌ニ對シ收穫
想高一七三二九三三屯、馬鈴薯作付面積ニ一六一六二二陌ニ對シ收穫
豫想高一六九二二八五屯、特用作物(大麻、亞麻、亞麻仁、菜子、
蓖麻)作付面積一〇一〇一陌ニ對シ收穫豫想高五二九一〇屯ニシ
テ昨年ニ比シ糧穀八一%、馬鈴薯八一六%、特用作物ハ菜子、一
六%、減收ヲ除ク外相當ノ增收ヲ期待シレカ蒐荷ハ糧穀ノ目標三
〇万吨(軍需八一五〇〇屯、特需八〇〇〇〇屯、輸出七五〇〇〇屯
準備需及一般民需八五〇〇〇屯)、非常保有三〇〇〇屯、油脂原料ニ
四八〇〇屯トシ之カ成果ニ万全ヲ期シツツアリ主ナル施策ヲ示セハ
左ノ如シ

(1) 水利施設

蒙疆ハ降雨量僅少ニシテ蒸發量多キ特種乾燥地帯ナルニ加ヘ年降
雨量ノ變動甚シク農業生産ノ安定増進上農業水利ノ開發改良最緊

要ナルニ鑑ミ農産資源ノ増産計畫ニ即應シ水利ノ改善施設ヲ講ス
ルコトトシ昭和十七年度ヨリ全二十一年度ニ至ル農産増産五ヶ年
計畫施行目標一ヘテ〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
五〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
八%ノ實績ヲ示シタリ

(2)食糧増産促進運動

現下ノ時局ニ鑑ミ大戦下動モスレハ沈滞セントスル現地民心ヲ振
起シ食糧ノ積極的増産運動ニ依リ進取的氣勢ヲ興へ物心兩面ニ於
ケル施設ノ躍進ヲ圖ラシムル方針ノ下ニ日本政府ハ蒙古政府ニ對
シ金貳百萬圓也ヲ交付アリシカ右ニ依リ(1)各都市ニ於ケル目給用
蔬菜園ノ獎勵(2)地方篤農家ニ對スル農具ノ配布(3)大小規模ノ水利
事業ノ實施(4)本運動促進上重要ナル農業實踐調査及農作物害虫ニ
關スル調査其ノ他本運動ノ宣傳、指導、優良村表彰等ノ事業ヲ計
畫實施セシメ着々所期ノ成果ヲ擧ケツツアリ

(8)集團農民移駐策

蒙古ニ於ケル鐵、石炭ノ確保増産ハ帝國ノ生存上絕對的必要ニ鑑
ミ可能ナルトキハ邦人農民ヲ移駐シ帝國ト蒙古トノ特殊關係ヲ鞏
メントノ見地ヨリ差當リ龍烟鐵礦ノ希望モアリ同社ノ糧食目給ヲ
策シ右鐵礦附近ニ五十戸程度ノ日本農家ヲ滿洲ヨリ移駐センメ次
イテ現地農民ト競合ヲ來ササル宣化、大同ヲ結ブ桑乾河、洋河流
域地帯及包頭附近ニ華北、蒙疆在留邦人ノ食糧目給ヲ目途トシ二
十萬程度ノ集團移民ヲ導入セントシ目下中央ニ内意ヲ仰クト共ニ
アラユル方面ヨリ其ノ可否ニ付検討中ナリ

一 林 産

蒙疆地域ニ於ケル林野ノ荒廢林産資源ノ涸竭ノ現状ヲ打破シ戰時下
激增セル木材ノ需要ニ對處ヤシカ爲既定計畫ニ基キ銳意林産資源ノ
培養ニ努メツツアリ昭和十九年度ニ於ケル實施計畫ハ都市防空造林ヲ
含ム造林四二二二〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

向現下外地材ノ輸入困難ナル狀況ニ鑑ミ可及的現地材ノ取得利用ヲ圖ルヘク之カ伐採計畫ヲ樹立シ出材ニ努力中ニシテ本年度ニ於ケル伐採實施額ニ配分計畫ハ三八一立米(軍需ハ七一六立米、官需一七〇〇立米、生産補充用ニハ一〇二立米、民需一〇〇立米)ナリ

一 輕工業

由來蒙ハ農畜産物ヲ中心トスル原料生産地ナルニ拘ハラス輕工業ノ發展遲々トシテ振ハス搾油、紡績、製革、製紙、石鹼製造醸造業等現地消費ヲ對象トシテ極メテ小規模ニ家内工業的ニ行ハレ獨リ製粉等ノミ近代の輕工業ノ色彩ヲ有シタルニ過キサリシ狀況ニアリ生産物ノ大部分ハ原料ノ備域外ニ移出セツレ生活必需品其ノ他ノ重要商品ハ學ケテ輸入ニ待ツノ外ナカリシモ最近地域外物資ノ導入困難ナルト地域内高物價抑削ノ一方法トシテ漁業等ノ爲主トシテ日本資本投下ニ依リ輕工業ノ急速ナル進展ヲ見ルニ至リ今ヤ輕工業

係ノ工場數八十ヲ算スルノ現況ニシテ煙草工業及製紙工業ノ投資額各億千万圓ヲ最高トシ製糖工業、製藥工業、皮革工業、鑄造工業、製粉工業、醸造業等何レモ百萬圓ヲ下ラス

蒙ハ貞節共榮團内ニ於ケル屈指ノ家畜産源域タルニ鑑ミ軍ト密接ナル連絡ヲ執リツツ其ノ改良増殖ニ關シ蒙古政府ニ對シ援助指導シツツアルカ昨年度ニ於テハ加フルニ氣象條件良好ナリシ爲家畜頭數ノ著シキ増加ヲ齎ヤリ昭和十八年末現在地内家畜頭數ハ左ノ如シ

頭數		前年度末頭數ヲ白トスル指數	
牛	五九一、八一	一〇七	
馬	三一一、三七八	一〇〇	
騾	五〇三、三五	一〇六	
驢	一、六〇七、七三三	一〇五	

畜種	本年産出	前年産出
馬	六、一六六九	一、一四
綿羊	二、一五七六	一、二五
山羊	六、三〇七〇	一、二五
豚	一、六五四八	一、四三
鶏	七、一三三三	一、〇四

殊ニ本年度ニ入り戦局ノ緊迫ニ伴ヒ蒙古産ノ馬匹並ニ獸毛、獸皮ニ對スル需要ノ要求愈々熾烈トナリ他面産業上ニ於ケル役馬及軍民ノ食肉ノ需要頓ニ増大ナルニ鑑ミ畜産施策ハ戦力増強ニ直接寄與スルヲ前途トシ之カ需要ノ充足ニ重點ヲ指向シ羊毛改良増産ニ關シテハ蒙古綿羊協會ヲ又馬産振興ニ關シテハ蒙古馬羣協會ヲ蒙古政府ノ施策ニ對スル協力機關トシメ其ノ活躍ヲ促シ所期ノ目的達成ニ努メツツアリ而シテ畜産諸施策ノ徹底ハ益々蒙古民衆ノ増産供出ニ關スル理解ト協力ノ度ヲ加ヘ參戰意識ノ昂揚ト俟ツテ別項記載ノ如ク好結果ヲ收メツツアリ

尙蒙産ノ畜産ハ獨リ敏上ノ點ノミナラス從來草原ニ於ケル主要食料ノ一部又ハ輸出ニ充當セフレタル乳製品ヨリ本年度内ニ一、五〇〇〇頭ノ存ゼインノ製造スヘク努力中ニシテ更ニ獸骨ヨリ活性炭素ノ製造ヲ企劃アラレ少量作ラ面粉製造事業又之ニ伴フ冷凍事業等ノ計畫モアリ一面各方向ニ戦力増強ニ寄與シツツ畜産ヨリ化學工業トシテ發展セントシツツアルコトハ大東亞戰爭ヲ轉機トスル一ツノ新シキ傾向ニシテ草原蒙産ノ將來進展スヘキ一ノ方向トモ考慮サレ注目ニ價スヘキ現象ト謂フヘシ

(1)軍馬ノ供出
軍馬ニ就テハ從來方一ニ備ヘ数量ノ現状維持ヲ目途トシ地區外トノ交易上ノ必要度ヲモ勘案シツツ年々買上頭數ヲ二千頭乃至三千頭ニ止メツツアリシモ本年度ハ時局ノ爲當初買上豫定數ヲ一躍四七二〇頭ニ引上ケ更ニ其ノ後ハ五八〇頭ノ追加要求アリ
供出總頭數ハ實ニ一、三三〇〇頭ニ達スルニ至リシヲ以テ交易計畫

大ナル増更ヲ加フルコトナク努力中ナルカ幸ヒ蒙古人ノ理解ト
 協力ヲ得タルヲ以テ之ト適切ナル施策ト俟ツテ重要望頭數ヲ完全
 供給シ得ル見込ナリ

(2) 獸毛獸皮ノ取得

獸毛獸皮ニ對スル軍ノ要望ハ戰局苛烈ニ伴ヒ前例ニナキ程増大ヲ
 示シタルモ之カ取得ハ軍ノ直接收買ト軍需獸毛獸皮取得ノ爲客年
 設立セシメタル蒙古皮毛公司ノ活用トニ依リ駱駝毛ノ生産減速俾
 外概テ軍ノ要望數ヲ完全ニ充員シ得ヘキ見込ナリ
 今軍要望數ニ對スル物品管絃ヲ示セハ左ノ如シ

品目	昭和十九年度重要望		本年九月末現在軍需管絃	
	數量	前年度全上指	數量	前年度全上指
羊毛	500,000 疋	100	1,576,670 疋	250
山羊絨	500,000 疋	100	1,013,611 疋	300
駱駝毛	200,000 疋	150	576,260 疋	150

品目	數量	前年度全上指	本年九月末現在軍需管絃	前年度全上指
牛皮	1,200,000 枚	217	3,198,800 枚	300
馬皮	100,000 枚	100	1,741,100 枚	70
羊皮	1,500,000 枚	123	8,545,630 枚	60
雜毛皮	200,000 枚	40	2,536,600 枚	27

(3) 役馬ノ供給

自動車燃料不足ニ伴フ輸送事情ノ窮迫ハ地域内ニ於ケル役馬ノ需
 要ヲ刺戟シ重要産業方面並ニ都市ト各地方ヲ結フ小運送方面ニ於
 ケル新ナル需要ヲ加ヘタルヲミナラス域外ヨリノ役馬ノ需要モ亦
 相當熾烈ノ度ヲ加ヘタルヲ以テ從來ノ馬匹數ノ現狀維持方針ヲ
 放棄シ緊急ノ要望ニ應フルヘク努力中ニテ地域内要望頭數ニ
 頭地域外北中支一八〇〇、山西一〇〇、滿洲國一〇〇〇要望頭
 一〇〇〇頭ニ對シ既ニ其ノ一部ノ供給ヲ了セリ

(4) 肉畜ノ供給

地域内ニ於ケル本年度肉畜ノ配給頭數ハ左表ノ如ク牛ニハ〇九〇頭、豚一〇〇〇頭、キ〇九一六七頭ト豫定セラレタル處近時域外ニ於ケル肉畜價格ノ高騰ハ内ニ於ケル肉畜ノ出張ヲ阻害スル傾向アルニ鑑ミ蒙古政府ノシテ家畜管理法ヲ制定公布セシメ家畜ノ買付、供出、配給、屠、出等ヲ一貫的ニ調整シムルコトトナリ軍需ヲ最優先的ニ扱ヒ、留邦人ニ對シテハ、殊配給機構ヲ通シ其ノ所要食肉ヲ確保スル方法ヲ講シヨ

	日蒙軍向	邦人向	般民需
牛	一八八〇〇	八〇〇〇	五五〇〇
豚	一	一〇〇〇〇	一
羊	八八八七	一五〇〇〇	六二八〇〇

地域外ニ對スル肉畜供給頭數ハ肉畜ノ自然増加頭數ト域内ニ於ケ

ル消費頭數トヲ考周シ年初ニ於テ大体肉牛ニハ〇〇〇〇頭（日本向一〇〇〇〇頭、華北向一五〇〇〇頭、滿洲向一〇〇〇〇頭）肉羊一〇〇〇〇〇頭（華北向一ト豫定セルカ其ノ後華北向軍需トシテ肉牛一八〇〇〇頭ノ要求アリシ爲之ヲ追加供給スルコトトナレリ尙地域外肉牛供給頭數日本向三千頭ハ帝國ノ蒙古政府ニ對スル積年ノ好誼ト支援ニ對シ深甚ナル謝意ヲ表シ兼テ帝國要路及產業戰士ニ對スル激勵ト慰問ノ爲蒙古政府王主席ハ蒙古自治邦ヲ代表シ帝國政府小磯總理宛ニ贈物シタルモノニシテ右ハ天津ニテ屠殺シ精肉皮革ノミ日本内地ニ搬出シ他ハ現地軍ニ對シ納付ヤシムルコトニ決定シ着々準備中ナリ

(5) 蒙古綿羊協會

右ハ昭和十六年十一月設立以來本年九月迄ニ延シ〇九一頭ノコリテ一ル種牡綿羊ヲ内地ヨリ輸入シ現地牡綿羊ニ交配シ雜種綿毛ヲ作出シ產量ノ増加ト毛質ノ改良ヲ企圖シ二ヶ所ノ種羊場ト五ヶ所

ノ種羊管理所ヲ設ケテ輸入種羊ヲ管理シ又一部ヲ農民等ニ貸與シ居レルカ雜種羊ハ極メテ健康ニシテ產毛量多ク毛質良好ニシテ農民ハ自家加工用トシテ之カ供出ヲ溢ル程ニシテ前途多量產毛因ニ協會ニ對スル國庫補助ハ昭和十六年度一、六六〇、〇〇〇圓、昭和十七年四〇〇、〇〇〇圓、十八年七二、五〇〇圓、十九年八九、八千圓、二十年一〇〇、〇〇〇圓、二十一年一〇〇、〇〇〇圓、二十二年一〇〇、〇〇〇圓、二十三年一〇〇、〇〇〇圓、二十四年一〇〇、〇〇〇圓、二十五年一〇〇、〇〇〇圓、二十六年一〇〇、〇〇〇圓、二十七年一〇〇、〇〇〇圓、二十八年一〇〇、〇〇〇圓、二十九年一〇〇、〇〇〇圓、三十年一〇〇、〇〇〇圓、三十一年一〇〇、〇〇〇圓、三十二年一〇〇、〇〇〇圓、三十三年一〇〇、〇〇〇圓、三十四年一〇〇、〇〇〇圓、三十五年一〇〇、〇〇〇圓、三十六年一〇〇、〇〇〇圓、三十七年一〇〇、〇〇〇圓、三十八年一〇〇、〇〇〇圓、三十九年一〇〇、〇〇〇圓、四十年一〇〇、〇〇〇圓、四十一年一〇〇、〇〇〇圓、四十二年一〇〇、〇〇〇圓、四十三年一〇〇、〇〇〇圓、四十四年一〇〇、〇〇〇圓、四十五年一〇〇、〇〇〇圓、四十六年一〇〇、〇〇〇圓、四十七年一〇〇、〇〇〇圓、四十八年一〇〇、〇〇〇圓、四十九年一〇〇、〇〇〇圓、五十年一〇〇、〇〇〇圓、五十一年一〇〇、〇〇〇圓、五十二年一〇〇、〇〇〇圓、五十三年一〇〇、〇〇〇圓、五十四年一〇〇、〇〇〇圓、五十五年一〇〇、〇〇〇圓、五十六年一〇〇、〇〇〇圓、五十七年一〇〇、〇〇〇圓、五十八年一〇〇、〇〇〇圓、五十九年一〇〇、〇〇〇圓、六十年一〇〇、〇〇〇圓、六十年餘圓收入済分ノミナリ

(二) 運 輸 交 通

一 鐵 道
 國內ニ於ケル陸上交通ノ幹線ヲ爲ス鐵道網ハ京包線(北京・包頭間)ノ大部(七五五・六杆)北同浦線(大同、大原間)ノ一部(一一一・一)及大青山線(包頭、大青山炭嶺間)四二杆ノ口泉線(大同、大同炭嶺間)九七杆ノ四線ニシテ其ノ總延長九三三・六杆何レモ蒙古政府ノ所有ニシテ國有民營主義ヲ採リ華北交通株式會社ヲシテ北支ノ諸鐵

道ト共ニ一貫的ニ之カ運營ヲ爲サシム
 昭和十八年度ニ於ケル貨客ノ輸送実績及昭和十九年度輸送計畫並ニ向上半年期輸送実績ハ左表ノ如クニシテ軍需物資並重要國防資源タル大同炭龍烟鐵嶺等ノ地下資源輸送ニ銳意努力京包線ノ隘點タル南口ハスノ改良(有効長延長、信號場設置)輸送ノ合理化ヲ計リタルモ昨年度ニ於テ輸送物資ノ大部分タル石炭、鐵礦ハ山元ノ虎疫發生ニ依リ生産減少計畫ニ對シハ六〇%ノ實績ニ過ギズ本年度上半期ニ於テハ空車廻入ノ不順調、爲九〇%ニ過ギサリシモ下半期ハ空車運用合理化ヲ圖リ且極力輸送能率ノ昂上ヲ期シ輸送ノ萬全ヲ期シツツア

年 度	種 別	計 畫	實 績	比 率
昭和十八年	貨物輸送	一、一六六、千噸	一、四八一、千噸	八六%
	旅客輸送	六、六二四、千人	七、五八三、千人	一一一%
	貨物輸送	二、三三五、千人	二、一四三、千人	九〇%
昭和十九年 上半期	旅客輸送	四、六一一、千人	二、六一一、千人	七五%

ノリナリノ... 増額管内五路線、延長五二〇キロ、... 治安々定、行旅力ノ浸透ヘノ努力、... 八ハ二一〇〇〇... 凡ソ六〇万... 尙燃料對策ニ付テハ... 需給ト地勢及道路狀況トヲ勘案シ石炭瓦斯及アセチレン瓦斯等生炭... ヲ併用代燃化三箇年計畫ヲ樹立シテ本年未迄乘用車バスノ全部、下... ツシノ約六三% 化... 爲乗用車六六% 貨物車四二%、... 待シ得ラレサル状態ニ...

一 目 動 車
蒙臨ニ於ケル自動車運轉事業ハ常規域ノ地味の特異性ニ基クテ... 備上ノ要請ト鐵道機關ニシテ... 適當ナルニ... 蒙臨汽車股份有限公司ハ本年三月資本金一千五... 88

増額管内五路線、延長五二〇キロ、... 治安々定、行旅力ノ浸透ヘノ努力、... 八ハ二一〇〇〇... 凡ソ六〇万... 尙燃料對策ニ付テハ... 需給ト地勢及道路狀況トヲ勘案シ石炭瓦斯及アセチレン瓦斯等生炭... ヲ併用代燃化三箇年計畫ヲ樹立シテ本年未迄乘用車バスノ全部、下... ツシノ約六三% 化... 爲乗用車六六% 貨物車四二%、... 待シ得ラレサル状態ニ...

一 小 運 送

戰局ノ進展ニ伴ヒ鐵道ニ附帯スル小運送ノ重要性且各種増産ノ陸路
カ小運送力ヲ不足アルニ鑑ミ輸送力ノ急速且劃期的ナル増強ヲ圖リ
國內群小小運送業者ヲ統合シ鐵道局ニ自動車運送トノ聯絡ヲ緊密ニ
スル爲本年十月特殊法人資本金一千万圓ノ蒙古運輸股份有限公司ヲ
設立シ牛馬車ノ輸送運賃ノ適正ヲ圖リ重要物資輸送ニ食糧ニ對ス
ル局地軍需輸送ノ万全ヲ期シツツアリ

一 航空

蒙疆ニ於ケル航空事業ハ中華航空株式會社ヲシテ北支、中支ヲ通シ
テ一貫的ニ經營ヤシメ現在營業定期トシテ北京―包頭間（七一三軒）
一週二往復、張家口―四子王旗間（五五〇軒）各週一回、張家
口―歸化城間（四六〇軒）一週一回ヲ運行シツツアリテ實際運行
軒數ニ應ジ蒙古政府ヨリ年二十万圓ヲ補助金ヲ交付シアリ
尙營業定期航空以外ニ於テ蒙疆ノ發展モアリ蒙疆ノ地運的環境其ノ他
ノ特殊性ヲ考慮シ政府ヲシテ極力飛行場ノ整備擴充ヲ圖ラシムヘク

指導シツツアリ
一 道路

蒙疆ニ於ケル道路ノ建設保守及管理ハ總テ蒙古政府ノ直營ニ屬シ本
地地ノ地運的性質及鐵道網疎大ニシテ水運全クナキニ依リ道路ニ
依存スルコト多大ナル現狀ニ鑑ミ自動車増強政策及治安整備上急遽
ナル建設發展ヲ企圖シ着々整備シツツアリ其ノ路線ノ延長ハ大幹線
道路ハ七〇軒、幹線道路ハ二六軒ナリ

一 發電

蒙疆ニ於ケル發電事業ハ政府ノ特殊法人タル蒙疆發電株式會社
ヲシテ一元的ニ統制運營セシメツツアリ其ノ發電所ハ九箇所一火
力一ニシテ發電設備容量四七五三〇KW 最大發電力四三〇七〇KW 年
間ニ於ケル發生電力一億七千六百四十六萬KWナリ而シテ大同炭礦、龍
烟鐵礦等地下資源ノ開發小型熔鑄爐ノ新設其ノ他重工業ノ開發ニ
伴ヒ電力需要ハ飛躍的ニ激増スルニ反シ設備器材等ノ導入ハ頗ル不

圓滑ニシテ下花園地區ニ於テハ電力面ハ生擔上重要ナル隘路ヲ形成シ居ルノ状態ナリ

蒙疆ニ於ケル郵政事業ハ政府ノ直營ニ屬シ其ノ組織ハ概ネ日本ニ準シアリ現在蒙疆ノ高度自治性ニ照應シ郵政ノ面ニ於テモ機構及財政共ニ中華郵政ニ對シテハ相互ノ連繫ハ保持シ居ルモ獨立ノ地位ニ在リテ肇建後ニ於ケル施政隨進ニ隨伴シ郵政事業モ亦健全ナル發達ヲ遂ケツツアリ今昭和十八年度ニ於ケル事業狀況ヲ示セハ左ノ如シ

○郵電局數	郵電本局	六
	全代辦所	九八
○郵便物	引受	九二ニ、一六件
	配運	九八、三〇、九八件
○小包	發送	一、七三、一三件
	到着	一、五五、〇三件

○爲替取扱高
振出 一、九〇九、二五〇圓
振入 四、〇七五、四九圓

○郵政儲金現在高
一〇、五五五、三八九圓

有線、無線及放送ニ依ル一般電氣通信事業モ亦政府ノ直營ニシテ其ノ設備、新設改良補修及管理ハ軍及鐵道ノ專用通信施設モ共ニ特殊法人タル蒙疆電氣通信設備株式會社ヲシテ一元的ニ保有運營セシメ所謂民有、國營ノ特異ナル形態ヲ採リ治安籌備上ノ要請ニ重點ヲ置キ通信網ノ整備擴充ヲ圖リツツアリ其ノ施設概況ハ左ノ如クニシテ比較的整備成績良好ナリ

○電報取扱局	郵電局	三
	全取扱所	一七
○電話取扱局	交換局	一
	通信局	二

○有線通信（延長）
 軍用 一八六八七杆 公衆用 一六六四八杆
 鐵道用 一五四七七杆 警備用 一六三七八杆

○無線通信
 張家口 三KW一臺、一KW一臺、五〇〇W一臺、七五〇W一臺
 大同 五〇〇W一臺、厚和 一〇〇W一臺
 包頭 三〇〇W一臺
 多倫 三〇〇W一臺 貝子廟 三〇〇W一臺

右ノ外蒙旗内ニ於ケル無線電ニ七箇所、警備通信所一七箇所
 防空通信所 七箇所（専用）アリ

○放送無線通信

張家口 一〇KW（ソ聯、外蒙、西北間）
 三〇〇W 華語
 二〇〇W 日語

大同 三〇〇W 華語
 三〇〇W 日語

厚和 一五〇〇W 日、華語
 包頭 一五〇〇W 日、華語